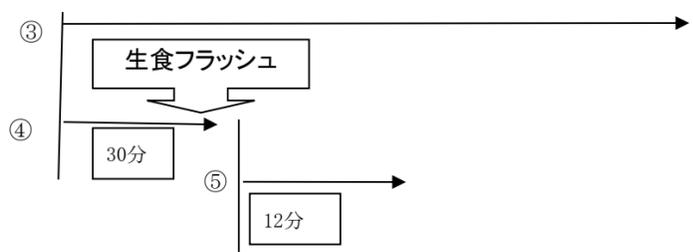


指示者	@USERNAME	身長	\$HEIGHT01_Doc	cm
コース数		体重	\$WEIGHT01_Doc	kg
		体表面積	#VALUE!	m ² (DuBois式)

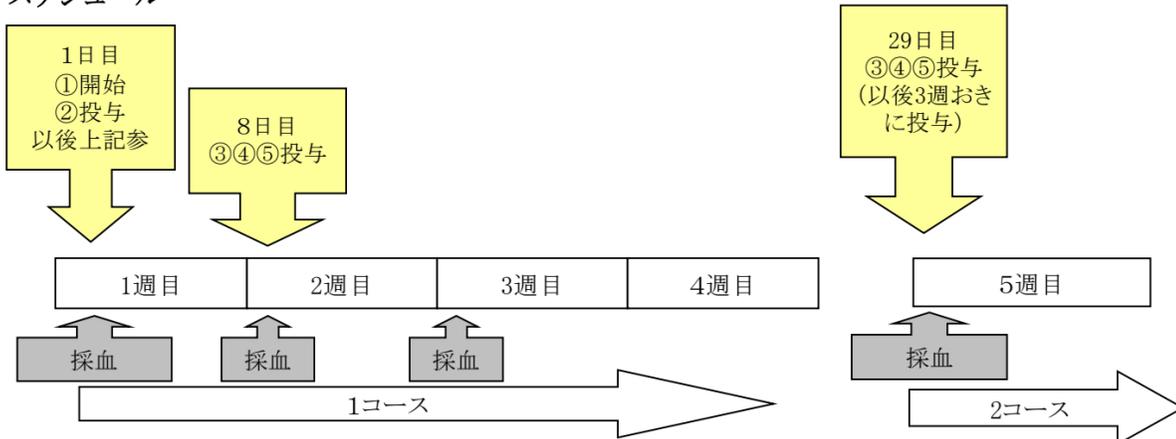
実施印

	薬物/実際の投与量	投与時間	投与経路		
①	パンピタン末 1g 1×朝食後	連日内服	内服 アリムタ投与1週間前から連日内服、アリムタ最終投与から22日まで連日内服		連日内服
②	フレズミンS注 1A	9週間ごと	筋注 アリムタ最終投与から22日まで9週ごとに投与		
③	生理食塩水 100mL 1V	ルートキープ	点滴		
④	グラニセトロン3mg/バッグ デカドロン3.3mg 2A	30分	点滴		
⑤	アリムタ 500mg/m ² 生食 100mL ()mg/body #VALUE! 計算値	12分	ルートキープの生食でフラッシュ後点滴		

投与手順



スケジュール



注意

NSAID服用中の患者はNSAIDを投与期間は中止。半減期が短い薬剤(ロキソニン等)はアリムタ投与2日前から投与後2日まで中止
半減期の長い薬剤(モービック)はアリムタ投与5日前から投与後2日まで中止
アリムタは生理食塩水以外の輸液との配合は不可

臨床成績

既治療の非小細胞肺癌に対するアリムタvsDTX

奏効率:アリムタ9.1% DTX8.8% (しかし、扁平上皮癌に関しては、DTXの方が効果が高い傾向がみられた)

(5) 抗腫瘍効果

解析対象^{注)}における奏効率は、アリムタ投与群264例で9.1%、ドセタキセル投与群274例で8.8%でした。

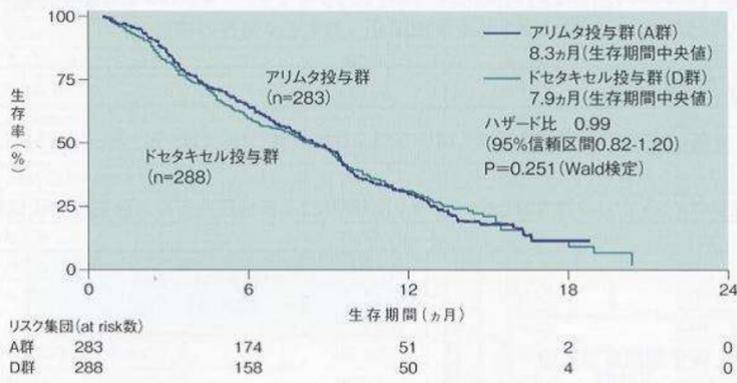
注)抗腫瘍効果の解析対象は組織診又は細胞診で非小細胞肺癌と診断され、根治的治療法が適応とならず、他の化学療法を同時併用していない患者で、測定可能病変を有し、アリムタ又はドセタキセルが1回以上投与された症例。

	CR	PR	PRNM*	SD	奏効率	95%信頼区間
アリムタ投与群 n=264	0.4% 1例	7.6% 20例	1.1% 3例	45.8% 121例	9.1%	5.9~13.2
ドセタキセル投与群 n=274	0% 0例	8.8% 24例	0% 0例	46.4% 127例	8.8%	5.7~12.8

*PRNM: 測定不能病変での部分奏効(Partial response in nonmeasurable disease)

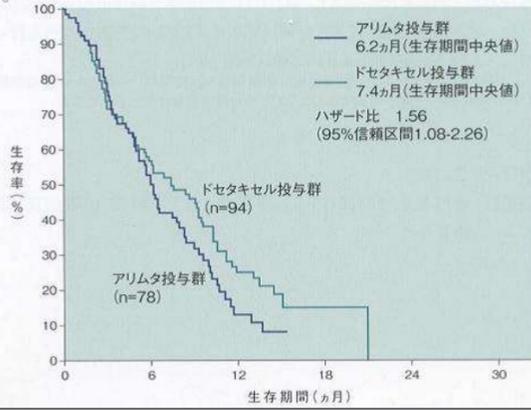
(1) 生存期間

アリムタ投与群283例の生存期間中央値は8.3ヵ月(95%信頼区間:7.0~9.4ヵ月)、ドセタキセル投与群288例は7.9ヵ月(95%信頼区間:6.3~9.2ヵ月)でした。



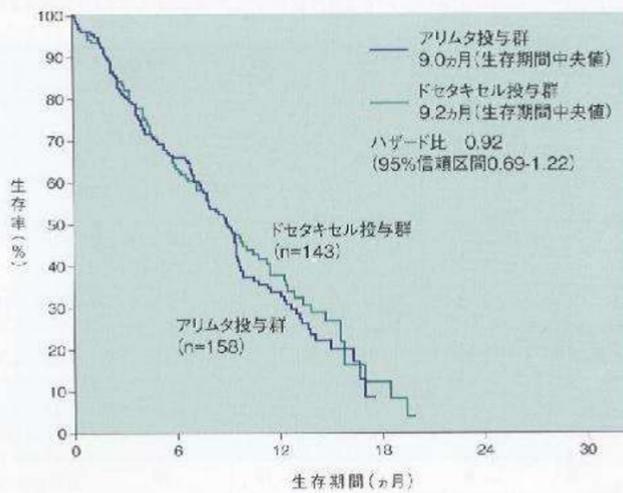
①扁平上皮癌患者における生存期間

扁平上皮癌患者に対する生存期間中央値はアリムタ投与群78例で6.2ヵ月、ドセタキセル投与群94例で7.4ヵ月で、ドセタキセル投与群が有意に生存期間を延長しました(P=0.018: Cox回帰分析)。



②腺癌患者における生存期間

腺癌患者に対する生存期間中央値はアリムタ投与群158例で9.0ヵ月、ドセタキセル投与群143例で9.2ヵ月で、両群間に有意差は認められませんでした。



③大細胞癌患者における生存期間

大細胞癌患者に対する生存期間中央値はアリムタ投与群18例で12.8ヵ月、ドセタキセル投与群29例で4.5ヵ月で、アリムタ投与群が有意に生存期間を延長しました(P=0.003: Cox回帰分析)。

